

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月17日

事業所名 伊達市ひまわり園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動のエリアが2階にあるので、小さい子など移動が大変。</li> <li>エリアが狭い。</li> <li>午後のわんぱく園が1クラス10人になり少し狭く、落ち着かなくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居室の数・居室の間取り等は、どうしようもないので、その環境の中で工夫しながら、やっていきたいと思えます。</li> <li>1クラスでの対応で、午前中5名で過ごしているのが狭く感じるのは当然であるが、居室の数が限られているので、なかよしルームを利用したり、園庭を利用したりし、分散して活動の幅を広げ、過ごせるようにしたい。</li> </ul>
	②	職員の配置数は適切である	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの程度、特性によっては、もう少し職員数がいてもよいと思う。</li> <li>お昼の時間（ひまわり園からわんぱく園）にかわる時、毎日工夫してスムーズに出来るか対応しているが、人数がもう少し多いればもっとスムーズに進むかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営基準上の人数にプラスした加配以上の職員配置をしている。個別対応のお子さんが多いため、お昼の時間の職員の増員は検討したいと思います。</li> </ul>
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供達の動きの変化を見て構造化をしている。</li> <li>なかよしルームが2階のため、階段があり、教室から遠い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時、園児の成長に合わせて、構造化しています。</li> <li>階段・教室等の遠く感じるかもしれませんが、園児たちは歩くのが大好き、先生がたの方が疲れを感じるようです。</li> </ul>
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校のつくりなので幼児には合わせにくい空間がある。</li> <li>小学校の造りなので、電気などが暗い場所がある。</li> <li>床が硬いので、転んだ時など危ない。</li> <li>床が冷たい（裸足になるので）</li> <li>まだの所もあるが、心地よく過ごせるよう努力している。</li> <li>幼児には使いにくい所が多い。手洗い、トイレ、階段など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧小学校なので、使い勝手の悪い箇所があるが、随時検討して、使い勝手がよくなるようにしております。</li> </ul>
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対し	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>実施しております。</li> </ul>

		て事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている				
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		・実施しております。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	・コロナで集まる機会がない。 ・コロナ禍でなかなかその機会が得られていない現状がある。	・このご時世でと言ってしまうと、何もできなくなってしまうので、オンラインでありますとか、本などで知識を高める等していきたいと思います。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0		・子どものモニタリングと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しております。今後も継続していきたいと思います。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	・地域支援について、もう少し積極的に取り入れていきたい。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0		・職員児童発達支援計画を共有して支援しております。今後も継続していきたいと思います。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0		・児童発達支援計画を作成しております。今後も子どもの状況に応じて、作成していきたいと思います。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	・朝のミーティングで確認。	・朝の打ち合わせを実施、確認しております。今後も継続し対応いたします。

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お昼の時など、気づいた点、どう支援したら良いのか話し合いをしている。</li> <li>・終了後はなかなか話す時間が取れず、支援記録にまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとり感じ方とらえ方が違うので、その時々で振り返りながら、職員同士振り返りをしております。話し合いを持ってない時は、記録による振り返りをしてしております。</li> </ul>
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施しています。今後も継続し対応いたします。</li> </ul>
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんとしたメンバーが参画していると思います。メンバーについては、検討しながら、参画をしていただくようにします。</li> </ul>
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携して支援を行っています。今後も継続し対応いたします。</li> </ul>
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	0	医ケア児の在籍なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者なし</li> </ul>
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科内科の主治医がいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師であるが、小児科ではないので、検討していきたいと思います。</li> </ul>
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し積極的なやり取りができるようになると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通園している幼稚園・保育所など、そして、今後の移行する事業所等と支援内容等の情報共有と相互理解を図っている</li> </ul>
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・通園している幼稚園・保育所など、そして、今後の移行する事業所等と支援内容等の情報共有と相互理解を図っている</li> </ul>
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修は受けていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通園している幼稚園・保育所など、そして、今後の移行する事業所等と支援内容等の情報共有と相互理解を図っている</li> </ul>
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その機会をなかなか作れずにいる。今後よく検討していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討していきます。</li> </ul>
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊達市自立支援協議会の、こども部会に定期的に参加し、情報を共有しています。</li> </ul>
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を共有して共通理解しております。今後も継続していきたいと思います。</li> </ul>

	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	・ペアトレを実施しているが、参加する保護者は少ないため、支援プログラムについても少し検討していけるとよいと思う。	・PRして、今後参加していただくようにしたいと思います。
保護者への説明責任等	㉑	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		・説明しております。・今後も継続し対応いたします。
	㉒	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		・同意を得て、サインを頂いております。
	㉓	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0		・今後も継続し対応いたします。
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2		・コロナウィルス感染のため保護者の会合が持てませんでした。
	㉕	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		・今後も継続し対応いたします。
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0		・今後も継続し対応いたします。
	㉗	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0		・今後も継続し対応いたします。
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		・今後も継続し対応いたします。
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	・参加させていただいている。	・富成地区に移転して、交流館事業とタイアップして参加しています。
	非常時等の対応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	
㉛		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		・今後も継続し対応いたします。
㉜		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0		・確認しています。該当者なし
㉝		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2		・該当者なし
㉞		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		・今後も継続し対応いたします。

④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会を年1回実施しています</li> <li>・職員同士支援・療育の中で言葉・態度など十分話し、虐待防止にお互い注意しております。</li> </ul>
④⑦	どのような場面にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者なし</li> </ul>

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。